

令和5年度下半期指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	本郷児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市青柳町5丁目24番1号		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	16,223,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄骨造平屋建 ◇敷地面積:1,468.33m ² ◇延床面積:488.78m ² ◇施設内容:遊戯室、幼児室、図書学習室兼集会室、おもちゃ図書館、事務室、駐車場		

●利用状況

		R5下半期	R5上半期	R4下半期	R4上半期	R3下半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	6,312	6,646	5,825	6,265	6,497
	移動児童館利用者数	428	141	349	106	86
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※12(11)	※8(8)	※13(12)	※7(7)	※5(5)
	開館日数(単位:日)	151	155	151	155	151

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①計画どおり実施しました。 ②常勤職員3人(児童厚生員3人)を配置しました。 ③たよりについて 未就学児の保護者用と小学生用便りを毎月それぞれ発行しました。未就学児用便りの裏面に、岐阜市内すべての児童館・児童センターの所在地を地図上で記載し、館内にも掲示しました。これにより、普段利用している児童センター以外の児童館を知っていただくきっかけとしました。また児童健全育成推進財団の「こどもまんなかじどうかん」のロゴを毎月おたよりに載せました。こどもを中心とした活動をしていることをおたよりでもPRしました。 館内に行事の案内板を作り、未就学児用と児童用に分けて掲示しました。 HPやインスタグラムについて HPでは、毎月便りの更新と事業の案内や活動の様子など身近に感じていただけるように随時更新しました(下半期更新回数55回)。また警報発令による休館の緊急案内もすぐにUPしました。今年度から新たにタブレット端末を活用したインスタグラムを始めました。導入したことにより、多様な手段で幅広い年齢層に、スピード一発でイベント情報や活動の様子を提供できることとなりました。「#こどもまんなか」をつけ、児童健全育成推進財団ウェブサイトにも掲載してもらいました。(下半期投稿回数100回以上、フォロワー163人) 未就学児用の便りを12月から投稿とハイライトの両方に載せ、毎月の閲覧数が450前後となりました。研修で公式のアカウントという信用をユーザーから得るためにビジネスアカウントにすることがよいと学び、10月から変更しました。下半期はHPだけでなくFacebookのリンクも貼り付け、本郷児童センターを多くの方に知っていただくようにしました。 ④ご意見箱を玄関に設置し、いつでも利用者からのご意見・ご要望を記入していただけるようにしました。また、苦情解決の仕組み・苦情の申出先を館内掲示することで、苦情に対し適切に対応することができる体制としました。 アンケートを実施しました。1月に保護者80人、1～2月に児童50人からアンケートに協力いただきました。記入された意見については、真摯に対応しました。アンケート調査結果は館内に掲示するとともに、HPに公開しました。 ⑤仕様書、事業計画書に基づき事業を実施しました。

自主事業 提案事業		
施設管理	<p>①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理</p>	<p>①管理者点検マニュアルにもとづき保守点検を適切に実施しました。 ②施設の清掃は、職員による日常清掃と就労継続支援B型事業所による週2回の清掃を実施しました。岐阜版アダプト・プログラムに申込み、週1回児童センターの周辺道路の清掃を実施しました。 空気清浄機を使用して、換気や加湿を行い感染対策を行いました。乳幼児用の玩具は毎日昼と夕方にしっかりと消毒をしました。拭くことのできない玩具や本、木製玩具はオゾン保管庫で行い、感染対策を行いました。玄関、受付に消毒液を、手洗い場やトイレはハンドソープと消毒液を設置しました。快適で安全に施設を利用していくため、エアコンの温度管理と換気、トイレの消毒には特に気を付けました。 園庭の草は草刈り機で刈り、花壇の手入れは職員が適宜行いました。 ③未使用の部屋の消灯、室内の適正な温度管理に努めました。エアコンフィルターの掃除や月1回空気清浄機のフィルターの掃除を行い、節電に努めました。 おもちゃ病院ぎふに壊れたおもちゃの修理を依頼し、おもちゃが長く使えるようにしました。廃材を活用した事業を実施し、環境に配慮しました。 ④専門業者による設備、遊具の点検を依頼しました。月1回、職員による施設内外の安全点検、月2回のAED点検、おもやは消毒の際に点検を行い、備品の維持管理に努め、安全に利用していただけるようにしました。</p>
施設修繕	<p>下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備</p>	<p>①修繕要望書を、岐阜市社会福祉事業団事務局及び岐阜市に提出しました。トイレのつまりなど緊急性のあるものは即時報告して判断を仰ぎ、修繕をしました。遊具で利用者の安全性が確保できない場合は、利用を中止しました。また日頃から職員が点検を行い、危険箇所がないように気をつけました。 ②大規模な修繕については指定管理者(本部)並びに岐阜市に要望を提出しました。ペンキ塗りやタイルの補修は職員が修繕を行いました。</p>
危機管理 法令遵守	<p>①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守</p>	<p>①、②、③岐阜市社会福祉事業団個人情報保護規程、災害対策マニュアル、児童福祉法等関係法令を遵守し適切に実施しました。 また災害や事故が発生した場合には、岐阜市社会福祉事業団事務局並びに岐阜市へ迅速に報告をしました。防犯・防災訓練(毎月1回)を実施しました。事務室を離れる時は、緊急通報装置を携帯しました。警察に定期的に巡回を依頼しました。 個人情報が記載された用紙については、鍵のかかる場所に保管し、使用後すべてシュレッダー処理を行い個人情報の漏洩防止を徹底しました。電子メールの誤送信対策の徹底を図りました。 メールアドレスを他者に漏洩する事がないよう電子メールを使用して一斉配信をする際は、自動的にBCCに変換できるソフトを導入し、対策しました。 また、非常用備品の確認を行い、賞味期限の確認をしました。</p>

●利用者評価

利用者アンケートの 実施状況	<p><保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 期間:令和6年1月6日～令和6年1月26日 回答者数:80人</p> <p><小・中・高校生用アンケート> 期間:令和6年1月4日～令和6年2月21日 回答者数:50人(小学:1年12人、2年13人、3年7人、4年12人、5年3人、6年0人) (中学:1年3人、2年0人、3年0人)(高校:1年0人、2年0人、3年0人)</p>

利用者からの要望・苦情と対処・改善	<p><保護者></p> <p>0才の子どもでも遊べるもののが、もう少しあると嬉しいです。 ⇒少しずつですが増やしています トイレの便座が冷たくて、特に冬は辛いです。 ⇒冬場は冷たいですね。市へ要望を伝えます。 お部屋が少し寒かったです。 ⇒朝や寒い日は特に部屋の温度に気をつけていますが、寒いときは職員にお声がけください おもちゃの移動をO.K.にしていただくと、兄弟で利用しやすいです。 ⇒おもちゃに対象年齢があり事故防止のため制限をさせていただいています。ご協力をお願いいたします。 クリーニング業者が入っている日に遊びに来たら(たまにしか来ないので予定は全く知らず、初めて知りました)、ただ「使用できますか?」と文句ではなく尋ねただけだったのに、「お知らせにはちゃんと書いてあるんですけど…」と言われて、なんだか…。 ⇒ワックスがけの日だったため、廊下や部屋が順に使用できなくなるので、ご利用中ご迷惑をおかけしますときちんとお話をすべきでした。こちらの説明不足でした。 子どもが舐めたおもちゃをどうしたらよいかわからず、自分で拭いています。 ⇒回収場所をすぐに説明しました。</p> <p><児童></p> <p>バレーボールがほしい ⇒安全のため軟らかいボールを使用をしています 幼児だけが入れるところを作らずに、だれでも入れるようにしてほしい ⇒赤ちゃんも安全に遊べるよう分けています。</p>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定 管理者	所管課	評価 委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	A	A	A
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	S	S	S
		区分評価				
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者アンケートの実施 ・利用者ニーズ・苦情・クレームへの着実な対応・運営への反映	A	A	A
		⑤利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑦施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	A	A	A
		区分評価				
		区分評価				
		区分評価				
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	A	A	A
		区分評価				
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的・人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
		⑪スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	A	A	A
		⑫スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	S	S
		⑬リスクへの対応方策(利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価				
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	A	A
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

□業務改善や工夫、新規事業について(効果性③)

新規事業

・多世代交流リトミックの開催

土日のイベントを増やしてほしいという要望に応え、多世代交流リトミックを土曜日に開催しました。小学生以上の児童を含めた家族全員で参加できたため、参加された祖父母も楽しかったと喜んでいただけました。

・子育て講座の開催

「イライラしない子育て講座」をイヤイヤ期が始まる前の0～1才の保護者対象に子育て講演会として本郷校区在住の方に依頼し、開催しました。参加した保護者は「話を聴いたことでこれからくるイヤイヤ期を乗り越えることができそうです」と話されました。

・乳児災害対策講座

能登半島沖地震後に赤ちゃんがいる家庭の災害対策を保健師さんにしていただきました。また避難訓練の際に、水消火器を使った消火訓練を実施しました。

・高校生と乳児のふれあい

岐阜高校家庭科クラブの学生が「ハンドベル」と「手遊び」を事前に練習し、0才～1才の親子の前で披露してくれました。その後、高校生と親子の触れ合いを行い、手作りのおもちゃをプレゼントしていただきました。保護者の方はハンドベルの演奏やおもちゃを作ってくれた高校生の姿を見て、自分の子の将来を思い浮かべたり、「優しくあやしてくれてうれしかったです」と話されました。高校生は「赤ちゃんと触れ合ったことがなかったのでかわいくて、お母さんともお話しできてよかったです」と感想を話してくれました。

・母子モへの登録

今期の取組みに対する評価
10月から母子モに登録し、幼児対象の自由参加の幼児クラブや子育て講演会のイベント情報を載せていただきました。また2月から未就学児用の便りを載せていただきました。アンケート調査により母子モを見て来館された利用者もいました。

業務改善や工夫

・サイエンスショーの開催

令和4年度から年2回、各児童館で開催しているサイエンスショーの内容について、これまでの開催経験を踏まえ、「子ども参加型で、実験・体験・驚きを感じられるもの」、「華やかさ・わくわく感が感じられるもの」など各施設からの要望に沿った内容のショーを開催し、親子で楽しんでいただきました。子どもたちだけでなく大人も一緒に驚き・どよめき、科学に対する興味・関心を高めることができました。

・保健師さんによる個別相談の実施

0才の集いに保健師さんに来館していただき、体重測定と育児に不安を持つ母親の皆様に個別相談会を実施しました。

・木育講座の開催

昨年度開催した木育講座を父親対象講座として、土曜日の午前午後の2回開催しました。多くの親子が参加してくれました。また材料の配布などを小学生が手伝ってくれました。

・土日祝日に未就学児対象自由参加の集いを開催

「お父さんとあそぼう」を毎月第2、4土曜日に開催しました。

「ぶどうひろば」を開催しました。父親や祖父と未就学児の利用が本郷児童センターは多く、休日に家族で参加できる自由参加の集いを不定期で開催しました。

アンケートにも、「平日は幼児保護者向けのイベントは多いが土日は少ないので、土日のイベントは嬉しいです」と記入がありました。小学生にもあそびの手伝いで参加をしてもらい、絵本や紙芝居の読み聞かせやパネルシアター、あそびの補助で活動を盛り上げてくれ、幼児との交流を図りました。

・職員のおすすめ絵本コーナーを設置

幼児室にある絵本ラックの上段を季節に合わせた職員おすすめ絵本として飾り、手に取りやすくしました。

□利用促進や利用者増に繋がる方策の実施(効果性⑥)

・インスタグラムによる広報宣伝活動

今年度から新たにタブレット端末を活用したインスタグラムを始めました。導入したことにより、多様な手段で幅広い年齢層に、スピード一発でイベント情報や活動の様子を提供できることとなりました。「#こどもどまんなか」をつけ、児童健全育成推進財団ウェブサイトにも掲載してもらいました。また警報発令による休館の緊急案内もすぐに投稿しました。下半期には、動画や音楽などを活用し、より親しみやすいインスタグラムを提供するための研修会を2回開催しました。(下半期投稿回数100回以上、フォロワー163人) インスタをたくさん上げることで、本郷児童センターの活動を知っていただけるようにしました。インスタを見ましたと、イベントへの参加や足形工作などを目的に来館される利用者もいました。

未就学児用の便りを12月から投稿とハイライトの両方に載せ、毎月の閲覧数が450前後となりました。

研修で公式のアカウントという信用をユーザーから得るためにビジネスアカウントにすることがよいと学び、10月から変更しました。下半期はHPだけでなくFacebookのリンクも貼り付け、そちらにも写真を投稿しました。

移動児童館に、インスタのQRコードを持参し、受付に掲示をさせてもらいインスタグラムの開設をお知らせしました。

・全児童館・児童センターの案内をおたよりに掲載

毎月発行している乳幼児と保護者向けおたよりの裏面に、岐阜市内すべての児童館・児童センターの所在地を地図上で記載しました。これにより、普段利用している児童館以外の児童館を知つてもらうきっかけとしました。

・「ツナグテ」利用者へのPR

毎月発行するおたよりを「ツナグテ」のチラシ受けに置いていただき、「ツナグテ」の利用者にも本郷児童センターのPRを行うことができました。

・母子モへの登録

10月から母子モに登録し、幼児対象の自由参加の幼児クラブや子育て講演会のイベント情報を載せていただきました。また2月から未就学児用の便りを載せていただきました。アンケート調査により母子モを見て来館された利用者もいました。

・幼児クラブ申し込み連携

登録制幼児クラブで定員を上回る応募があり、残念ながら抽選に漏れてしまった方に対して、他館の幼児クラブに空きがある場合、幼児クラブを紹介できる体制を構築しました。

・木育講座の開催

土日のイベントを増やしてほしいという要望に応え、昨年度平日に開催した木育講座を父親対象講座として、土曜日の午前午後の2回開催しました。多くの親子が参加してくれました。「わが子のためにヒノキを使ったマラカスが作れ、とても記念になりました」と話していました。

・土日祝日に未就学児対象のイベントを開催

アンケートに「平日は幼児保護者向けのイベントは多いが土日は少ないので、土日のイベントは嬉しいです」と記入があり、「多世代交流リトミック」、「お父さんとあそぼう」や「ぶどうひろば(休日の未就学児の集い)」など土日の家族みんなで参加できる休日のイベントを増やしました。昨年度下半期よりも300名幼児の利用が増加しました。

	<p>□人材育成の方策(安定性⑫)</p> <p>職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者対策研修会 11月:岐阜中警察署員・長森児童センター ・虐待防止研修会 11月:エールぎふ職員・ドリームシアター岐阜共催 2月:岐阜市役所人権啓発センター職員・ドリームシアター岐阜共催 ・職員スキルアップ研修会(6月～1月、6回/年開催、下半期は3回開催) 各児童館・児童センター職員1名以上が参加 10月:小学生向け工作メニュー・黒野児童館 参加 11月:大人(母親クラブ)向け行事メニュー・東児童センター 参加 1月:ものづくり講座・ドリームシアター岐阜2回開催 参加 ・インスタグラム研修会 11月:「What is SNS!」講師:シネマトグラファー 参加 2月:各施設の疑問・質問の解決に向けて 参加 ・普通救命救急講習会 11月:本郷校区親子サークル「普通救命救急講習会」に参加、受講 講師:岐阜中消防署職員 ・木育指導者研修会 1月:事例発表会、グループワーク参加 <p>□地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用(⑭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜高校家庭科クラブの学生が「ハンドベル」と「手遊び」を事前に練習し、0才～1才の親子の前で披露してくれました。その後、高校生と親子の触れ合いを行い、手作りのおもちゃをプレゼントしていただきました。 ・金華、本郷、木之本青少年育成市民会議家庭部会主催の親子サークルに活動場所を提供し、本郷児童センターの職員が親子で楽しめるふれあい遊びや工作などを提供しました。 ・毎月1回開催されている本郷校区の自主運営子育て支援サークル「コアラ」と本郷児童センターの利用者との交流の機会を作りました。 また、11月の普通救命救急講習会に本郷児童センターの利用者と職員も参加させてもらい心肺蘇生法やAEDの使用、誤飲時の対応などを学ばせてもらいました。 ・京町保育所の保育士に2か月に1度来館してもらい、0才親子に遊びを提供してもらいました。毎回新しい遊びを教えていただけるので、参加される親子も楽しみにされていました。 ・沖ノ橋認定こども園の保育士に来館してもらい、保護者の子育ての悩みを話してもらい、アドバイスをしていただく機会を設けました(「ハッピーワーク坊や」10、1、2月開催)。 ・中保健センターの保健師に来館してもらい、地域の親子サークルの支援を一緒に行いました。また0才の集いで乳児の災害対策講座や子育て相談のため来館してもらいました。 ・明郷小学校コミュニティスクール「地域教育部」の委員として子ども110番の家や見守り隊の活動に協力をしました。 ・「イライラしない子育て講座」をイヤイヤ期が始まる前の0～1才の保護者対象に子育て講演会として本郷校区在住の方にボランティアを依頼し、開催しました。 ・2才のリトミックの講師を地元出身の方に依頼しました。 ・おもちゃ病院の開設に協力をしていただきました。 ・当法人内の就労継続支援B型事業所による施設清掃を実施しました。 <p>□地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(貢献性⑮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文化祭 &けやきまつり」に参加 本郷校区にある就労継続支援B型事業所2施設と本郷児童センターがコーナーを出しました。児童センターは、以前寄付していただいたストローを使ったバタバタ動くおもちゃ作りを行いました。けやきまつりで本郷児童センターが未就学児対象の工作コーナーを出すことを児童に協力してもらい、「来てね～」とインスタグラムで事前にPRしました。当日は、50人分を用意しましたがすべてなくなりました。家族全員でまつりを楽しみながら参加してくれたり、小学生や中学生が弟や妹のために作ったり、孫が遊びに来るので作らせほしいという祖父母の参加もありました。 ・岐阜版アダプトプログラムへの参加 職員や児童が児童センター周辺道路の清掃活動を定期的に実施する、岐阜版アダプトプログラムに参加しています。清掃活動は、毎週1回実施してきれいな街を保てるように協力をいたしました。 ・子ども110番の家の登録 子どもが助けを求めた際、その子どもを保護し、必要により警察、学校、家庭などへ連絡するなど、地域ぐるみで子どもたちの安全を守るために、子ども110番の家に登録しています。児童の帰宅時間に見守りも行っています。 ・地元の清掃活動に協力 11月に開催されたけやき通りの清掃活動に参加しました。
前回までの意見を踏まえた取組み状況	<p>□所管課の意見のとおり、適切に管理運営されている</p> <p>アンケートや利用者との会話の中で、何が今求められているかを敏感にとらえ、活動に取り入れて参ります。</p> <p>児童の意見を聞く「児童会議」を定期的に行い、今後も児童センターの活動を盛り上げられるように児童の意見を取り入れた活動を行い、行きたくなる児童館活動を行って参ります。</p>
今後の取組み	<p>□利用者から人気のあるイベント「リトミック」、「木育講座」、「絵本ライブ」などは今後も継続していきます。</p> <p>□新規事業を行い、魅力的な児童館活動を行っていきます。</p> <p>□父親が参加しやすいイベントを継続していきます。</p> <p>□3月の児童会議の中で出た「子どもマジックショー」を来年度に開催します。</p> <p>□職員研修会を充実していきます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止やリスク軽減のための研修会に参加します ・絵本の読み聞かせ技術の向上などスキルアップを目的とした研修会に参加します □アンケートを行い、利用者の声に耳を傾け、事業を実施していきます。 □利用者の方に施設を安全に利用していただくため、掃除や安全点検を毎日行います。

●所管課の意見

- 父親を対象とした木育講座や多世代交流リトミックの開催など、業務改善や新規事業に積極的に取り組んでいる。
- 移動児童館を下半期で12回実施し、そのうち未設置地区を11回実施するなど、児童館未設置地区での児童館の活動普及に努めている。
- 地元行事の「文化祭 &けやきまつり」や、地元のけやき通りの清掃活動に参加するなど、地域の活動に貢献している。

●指定管理者評価委員会の意見

所管課の意見のとおり、適切に管理運営されている。
児童館は子どもの居場所としての役割があることから、アンケート等子どもの意見を大切にし、今後も運営に努めて欲しい。
地域のネットワークを利用しながら運営している点が評価できる。
トイレの便座が冷たいとアンケートにあるので、なるべく早く改善できるといい。
高校生と乳児とのふれあいの機会をはじめ、多世代交流の提供に努められており評価できる。